

発することにより、これまで存在していなかった、児童の処遇による変化を捉えるための共通の指標を得ることを目的とする。また、この研究自体によって、全国の児童自立支援施設の連携がなされることをめざすものである。

B. 研究方法

1) 全国の児童自立支援施設の職員（元職員も含む）13名からなる検討委員会を立ち上げ、まず、児童自立支援施設におけるアセスメントの意味とそのあり方についての検討を行う。2) その検討に基づいて、委員によるブレインストーミングにより、児童を評価するための評価項目の項目出しを行う。3) 得られた項目を用いて、評価の概念構成の試案を作成する。4) 概念構成試案に基づいて、先に挙げた評価項目の中から、抽象度が高すぎる、あるいは低すぎるもの、特殊な状況や特定の児童のみに当てはまると思われるもの、意味的に重複するものなどを除外した上で、児童評価表試案を作成する。5) 試案を全国の児童自立支援施設に配布し、実際に評価表を用いて児童の表を試行的に実施する。6) 評価項目の妥当性を検討するため、項目評価用紙を作成し、各項目が児童を評価するための指標として妥当かどうか、全国の児童自立支援施設職員による評価を行う。7) 同時に、児童評価表試案にさらに付加したほうがよいと思われる項目、概念構成試案の修正すべき点などについても意見を収集する。8) 次年度において、5)－7)で得られた資料に基づいて、児童評価表試案の項目の精選を行うと共に、寄せられた付加項目を検討の上評価表に追加して改訂版を作成し、再度5)、6)の作業を繰り返して項目の再評価を行うことにより、現場職員の経験の集約に基づいた児童評価表を作成する。

（倫理面への配慮）

児童に対して実施する調査票は、氏名欄があるが、実際には氏名は記入しない。各施設内では児童を特定できるようにすることで、今後の調査に備えるが、児童の実名が本研究分担者及び研究協力者には伝わらないようにする。

C. 研究結果と考察

1) 検討委員会において出された意見を集約すると、児童自立支援施設における児童のアセスメントにおいて留意すべき点は、次のようである。

- ・児童の施設での生活における変化（成長）を捉えることを主眼とすべきである。
 - ・職員の経験を集積する形でアセスメントツールを開発すべきである。
 - ・客観的に観察できる、児童の行動に基づいたアセスメントが主体となるべきだが、その一方、アセスメントを行う者が長期にわたり児童と接する職員に限られることを考えると、横断的な一時点での行動観察だけではなく、継時的な変化を含むものであってよく、さらに、特定の行動の意味づけなども、ある程度のレベルであれば可能であると思われ、それによって得られる情報は重要である。
 - ・このような形でアセスメントツールを開発することにより、蓄積された経験の共有化を図りたい。
 - ・現在、児童自立支援施設における退所基準等は統一されていないため共通に使える指標があれば有用である。
 - ・児童のどのような点を見るべきか、という職員に対する教育、啓発のためのツールとしても使えるものでありたい。
- 2) 上記の検討に基づいて、委員によるブレインストーミングを行い、児童評価の項目出しを行った。ブレインストーミングに当たっては、次のような視点を提示した。
- ・現場で職員は、児童のどのような点を見て

いるか

- ・児童が成長した、と感じるのはどんな時か
- ・以上のような観点で、できるだけ、生活に密着していて、具体的で、行動として観察することができるものを項目として挙げて欲しい
- ・その子の人格特性等を見ようとするものではない
- ・理論的枠組みから考えるのではなく、直感的に出してほしい

その結果、304項目が得られた。

3) 得られた評価項目を用いて、KJ法による概念構成を行った。その結果得られた概念図の試案を図1に示す。これはあくまで作業段階での試案であるが、耐える力の成長、コミュニケーションの成長、対人関係の成長、自己評価の成長、生活の成長という相互に関連し合う5つの軸が想定された。5つの軸の関係は、次のように想定された。

- ・被害意識、対人不信感を出発点とする「対人関係の成長」の軸を中心とする（中心的カテゴリー）。
- ・この成長は、2つのサブカテゴリー「コミュニケーションの成長」及び「自己評価の成長」に支えられている。またこれらは相互に関係しあっている。
- ・もう一つのサブカテゴリーである「耐える力の成長」は、単純にルールを守れるようになることから出発して、対人関係軸と近い「待つ・譲る」、コミュニケーション軸と近い「断れる・止められる」自己評価軸と近い「自分の非を認める」持ちこたえられる」「自分で回復できる」といった要素からなる。

4) 概念構成の試案に基づいて項目を整理し、抽象度が高すぎる、あるいは低すぎるもの、特殊な状況や特定の児童のみに当てはまると思われるもの、意味的に重複するものなどを除外した上で、児童評価表試案（別添資料1）を作成した。項目数は「耐える力の成

長」カテゴリー30項目、「コミュニケーションの成長」カテゴリー33項目、「対人関係の成長」カテゴリー39項目、「自己評価の成長」カテゴリー34項目、「生活の成長」カテゴリー82項目の計218項目である。

5) 作成した児童評価表試案を全国58の児童自立支援施設に配布した。実施数は各施設約10名程度、計約500名である。

6) 評価項目の妥当性を検討するため、項目評価用紙を作成した（別添資料2）。各項目が児童を評価するための指標として妥当かどうか、全国の児童自立支援施設職員によって項目ごとに5段階評価を行う。各項目について、児童を評価する指標として妥当かどうかを採点する。採点基準は、5：非常に有効、あるいは有意義、4：有効、3：まあ有効、2：あまり有効でない、1：無効あるいは不適切、の5段階評価で採点欄に記入する形とした。また、各項目ごとにコメントが得られるようにした。実施数は各施設約10名程度、計約500名である。集計の際には、5段階評価の平均点を主な選考基準とし、それに加えて最高評価5を得た数も加味して、各項目の妥当性を職員の経験の集約により担保することを考えている。

7) 6)と同時に児童評価表試案にさらに付加したほうがよいと思われる項目、概念構成試案の修正すべき点などについての意見を収集するためのアンケート用紙を作成した（別添資料3）。これにより、児童評価表の開発自体に、各児童自立支援施設の職員が直接的に参加する形となることをもくろんでいる。

D. 結論と次年度の研究予定

児童自立支援施設の職員の経験を集約する形で、アセスメントの概念構成試案、児童評価表の試案、評価項目の評価用紙、付加項目と概念構成についての意見集約のためのアンケートを作成した。次年度は、こ

これらの解析を行い、児童評価表試案の項目の再検討と精選を行うと共に、寄せられた付加項目を検討の上評価表に追加して改訂版を作成した上で、再度調査を繰り返すことにより項目の再評価を行い、児童評価表の決定稿をを作成する予定である。

E. 研究発表

1. 論文発表

(1) 単行本

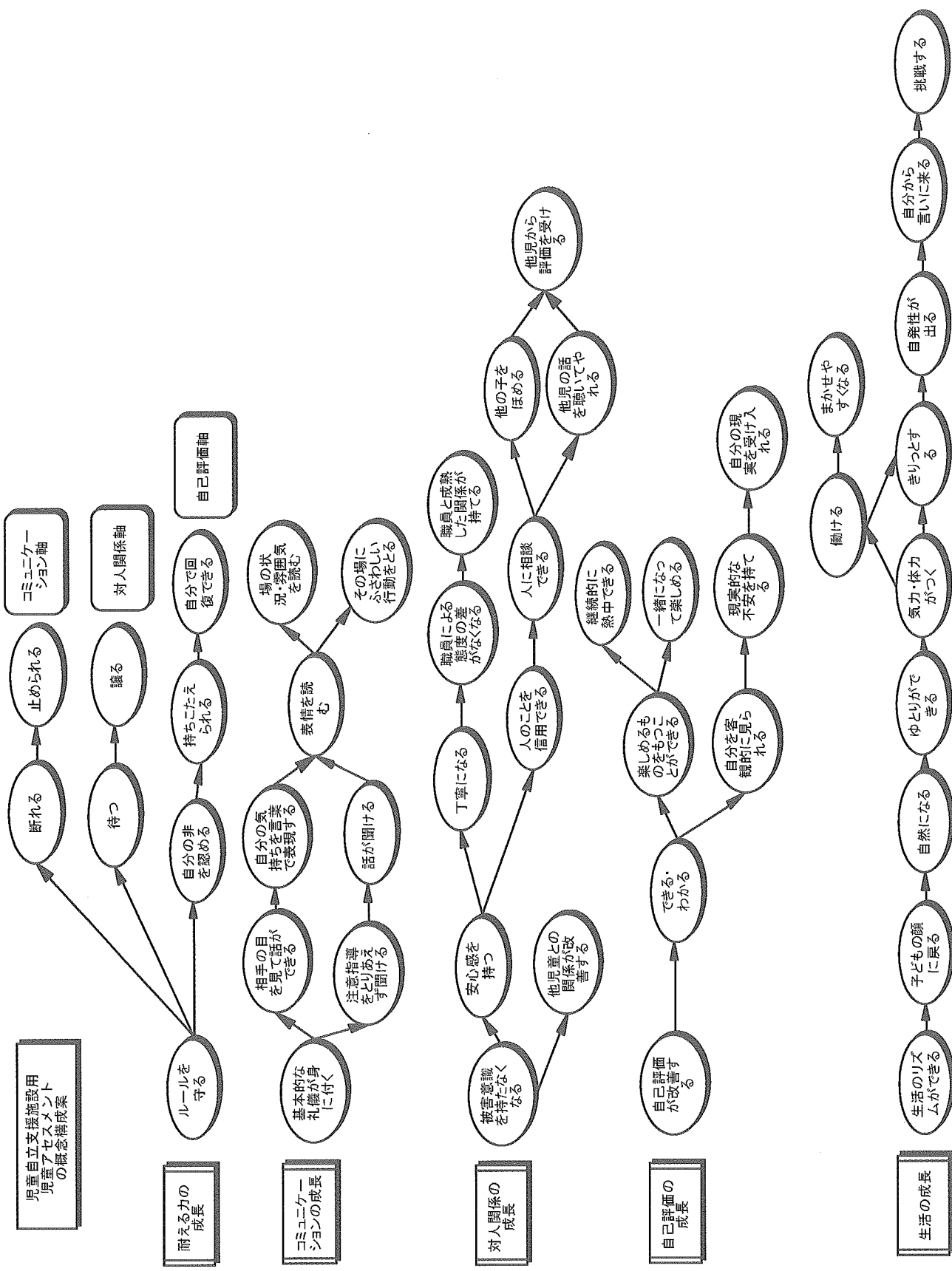
- 富田拓：供述心理学．司法精神医学 2 中谷陽二編，刑事事件と精神鑑定．中山書店．東京．2005

(2) 雑誌

- 富田拓：児童自立支援施設．現代のエスプリ 462 シリーズ非行の現在 生島浩編，非行臨床の課題．至文堂．東京．2006.

2. 学会発表

- 富田拓：行為障害の精神療法の可能性—児童自立支援施設での経験から．第18回思春期青年期精神医学会．2005.
- 富田拓：非行少年は自然の中で立ち直れるのか—北海道家庭学校での経験から．日本野外教育学会．2005.



児童用評価票

実施 年 月 日

児童氏名 _____

評価者氏名 _____

・半年前(入所後6ヶ月未満の場合は入所時)と比べて、当てはまる欄にチェックを入れてください。

A:耐える力の成長		もともとできていた	できるようになった	ややできるようになった	ややできていない	まったくできていない
<ルールを守る>						
A-1	ルールを守れる					
<断れる>						
A-2	無断外出を相談されて断る					
<止められる>						
A-3	他児童に意味のある(有効な)注意や指示をする					
A-4	他児の無断外出を止めようとする					
<待つ>						
A-5	待つことができるようになる					
A-6	一年待てるようになる					
A-7	聞くことができるようになる					
A-8	欲求をすぐ満たそうとしない					
A-9	順番を守る					
<譲る>						
A-10	譲ることができるようになる					
A-11	「自分が～」ではなく、一歩引くことができる					
A-12	自分のことばかり主張しなくなる					
<自分の非を認める>						
A-13	素直に非を認める					
A-14	嘘をつかなくなる					
A-15	言い訳をしなくなる					
A-16	職員に説明されると自分の悪いところを認められるようになる					
A-17	事実をつきつけられても最後まで言い逃れをすることがなくなった					
A-18	過去の悪いことを「実は・・・」と打ち明ける					
A-19	責任転嫁しなくなる					
A-20	問題を起こしたときに自分から持ち出してくる					
<持ちこたえられる>						
A-21	挑発に乗らない					
A-22	自分の課題を意識して行動をセーブできる(例:一言多い子が一言控える努力をする)					
A-23	「こらえる」ことができるようになる					
A-24	自分のことについての悩みを抱えられる(すぐ行動で表さない)					
A-25	ストレス状況になった時、自分で解放(消化)できる術のようなものを身につける					
A-26	いじめられたけど逃げなかった					
<自分で回復できる>						
A-27	感情の興奮を自分で鎮めることができる(回復できる)					
A-28	気持ちが不安定になっても日課をこなせる、あるいは早く日課に戻る					
A-29	少しの失敗でいじけたり、すねたりしないようになる					
A-30	自分の行動をコントロールする					

B:コミュニケーションの成長		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよう になった	ややで きていな い	まったく できてい ない
<基本的な礼儀が身につく>						
B-1	挨拶ができる					
<相手の目を見て話ができる>						
B-2	相手の目を見て話ができる					
<自分の気持ちを言葉で表現する>						
B-3	相手に伝えようとする言い方ができるようになる					
B-4	言葉で自分の気持ちを表現できるようになる					
B-5	日誌の内容が形式的なものから自分の内面的、 心理的なことについて書くようになる					
B-6	自分の思っていることを自分の言葉で話せる					
<注意、指導をとりあえずきける>						
B-7	注意、指導をとりあえずきける					
B-8	ごめんなさいと言える					
B-9	ありがとうと言える					
<話が聞ける>						
B-10	自分以外の考え方を受け入れられる					
B-11	人の話をきけるようになる					
B-12	叱られたことが入っていくようになる					
B-13	叱られても後腐れがない					
B-14	物事を自分の身におきかえて考えることができる					
<表情を読む>						
B-15	相手の感情に気づく					
B-16	表情を見る					
B-17	眼の会話が職員とできるようになった					
<場の状況・雰囲気を読む>						
B-18	人の失敗をフォローしてあげられる					
B-19	怒られている時に真剣になる					
B-20	人の話に強引に割り込まない					
B-21	職員がしたことを指示する前に察知して行動する					
B-22	まわりの空気を察知して、気を遣うことができるよ うになる					
B-23	人が叱られている時に笑わない					
B-24	「静かにしろ」という前に静かにする					
B-25	客が来たらスリッパを出す					
B-26	まわりがみえる					
<その場にふさわしい行動をとる>						
B-27	黙想中笑わなくなる					
B-28	気がつく(周囲を見て自分のやる事を見つけられ る)					
B-29	相手を決定的にキレさせなくなる					
B-30	外出時にガンをとばさない、トラブルを起こさない					
B-31	一般中学生相手に威嚇しない					
B-32	必要なとき他の児童を手伝う目配りをする					
B-33	お互いにかまえずコミュニケーションがとれる					

C:対人関係の成長		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよう になった	ややで きていな い	まったく できてい ない
<被害意識を持たなくなる>						
C-1	「オレばかり」という意識がなくなる					
C-2	仕事を頼まれた時、「俺がですか?」「なんでですか(何故自分に)?」と言わなくなる					
C-3	被害感が抜ける					
C-4	他児と同じ対応をしないと文句を言っていたのが、違った対応を受け入れるようになる					
<安心感を持つ>						
C-5	職員から見えないところに居たがった(居場所が不自然)のが、居場所が自然になる					
C-6	職員が目を離すことができるようになる					
C-7	なにができた、やれた、嬉しかったという話をする ことができる					
C-8	相手の目を見て話が聞けるようになる					
C-9	夜尿が止まる					
C-10	職員(自分にとって指示、命令する人)への態度が やわらかくなった					
C-11	職員によって来る(話し掛けてくる、近づいてくる)					
C-12	話がなくても職員の近くにいる					
C-13	職員との距離感が近くなった					
<他児童との関係が改善する>						
C-14	しつこいちょっかいをしなくなる(限度を知る)					
C-15	生徒間の人間関係をうまくこなす					
C-16	トラブルの対処がうまくなる					
C-17	他の児童とのトラブルを話し合いで解決できる					
C-18	けんか、トラブルなどの問題行動が減る					
C-19	対人関係のとり方がうまくなる					
<丁寧になる>						
C-20	日記などの文字をていねいに書くようになった					
<職員による態度の差がなくなる>						
C-21	職員によっての態度の違い(差)が小さくなった					
C-22	職員に敬語で冗談が言える					
C-23	職員と世間話ができる					
<職員と成熟した関係が持てる>						
C-24	世間話ができる					
C-25	敬語で冗談が言える					
C-26	職員に見せない自分を持てる					
<人の事を信用できる>						
C-27	自分の大事なものを貸せる					
C-28	弱みを見せられる					
C-29	自分のもの(例:食べ物)を公共の場(冷蔵庫など)に置いておくことができる					
<人に相談できる>						
C-30	人にSOSを出すことができる					
C-31	人に頼ったり依存しながらも問題を解決することが できる、がまんできるようになる					
C-32	特定の大人への依存感情を持つようになる					
C-33	困ったことや悩みなどを相談できる					
C-34	人に愛着を持つことができる					
C-35	キレなくなる					
<他の子をほめる>						
C-36	日常の中で他の子を見て褒めることができる					

C:対人関係の成長(つづき)		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよ うになっ た	ややで きていな い	まったく できてい ない
<他児の話を聞いてやれる>						
C-37	他児の話(悩み)を聞いてやれる					
<他児から評価を受ける>						
C-38	他児童に「あいつ変わった」と言われる					
C-39	他児童に「あいつは大丈夫だよ」と言われる					
D:自己評価の成長		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよ うになっ た	ややで きていな い	まったく できてい ない
<自己評価が改善する>						
D-1	「僕なんかどうなってもいいんだ」などの自己否定的な言動が少なくなる					
D-2	どうすればよくなりますか、自分のどんなところがよくなりましたか、などと訊くことができる					
D-3	「どうせ俺なんて」「なんで俺ばかり」と言わなくなる					
D-4	むやみにため息をつかない					
<できる・わかる>						
D-5	主体的に、わかった、できたと言える					
D-6	勉強に興味を持つ					
D-7	授業を受けるのが楽しいと言う					
D-8	テストの点を気にするようになる					
D-9	作業の成果を喜ぶ					
D-10	クラブや作業に行くのを楽しむ					
<楽しめるものを持つことができる>						
D-11	自分ができていることを見つける					
D-12	何をやっても楽しめる					
D-13	生活を楽しめる					
D-14	最初嫌がっていたことも、やっているうちに楽しめる					
D-15	自由時間の行動にバリエーションが増える					
D-16	一人でいられる					
<継続的に熱中できる>						
D-17	モチベーションが持てる					
D-18	一生懸命やる					
D-19	何かに熱中する					
D-20	来年もまたやろうという					
<一緒になって楽しめる>						
D-21	みんなで何かやる時、いっしょになって楽しめる					
<自分を客観的に見られる>						
D-22	自分のことを客観的に語れる					
D-23	予測ができる					
D-24	現実的になった					
D-25	物事を自分以外の視点から見ることができる					
D-26	自分の成長・進路を考えて、残って生活することを選ぶ					
D-27	自分の持つ不安に気づくことができる					
D-28	新入生などの行動を見て、昔は自分もこうでしたねと、振り返ることができるようになる					
D-29	親との関係を現実的に話せる					
D-30	入所したことや指導に対して不平不満を言わなくなった					
<現実的な不安を持てる>						
D-31	退所後への不安を示すようになる					
D-32	自分の問題(不安)に気付いて「どうしよう」と思う					

D:自己評価の成長(つづき)		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよう になった	ややで きていな い	まったく できてい ない
D-33	「大丈夫ツスカね」などと不安であるというサインを出せる					
<自分の現実を受け入れる>						
D-34	自分の境遇を受け入れる					
E:生活の成長		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよう になった	ややで きていな い	まったく できてい ない
<生活のリズムができる>						
E-1	決まった時間に起きられる					
E-2	すっきり目覚める					
E-3	夜、眠くなる					
E-4	よく寝るようになる					
E-5	消灯後、早く寝る					
E-6	「もう寝ようぜ」と打ち切る					
E-7	起床時間が守れる					
E-8	盗み食いが止まる					
E-9	睡眠、食事、排泄が安定する					
E-10	生活のリズムに慣れた					
E-11	歯磨きをごまかさなくなる					
E-12	食事をゆっくり味わって食べるようになる					
E-13	食事が適量になった					
E-14	すばやく着替えることができる					
<子どもの顔に戻る>						
E-15	面会者が快く面会できる					
E-16	親、面会者が「子どもらしくなった」「表情が変わった」と言う					
E-17	声を出して笑う					
E-18	笑顔が見られるようになる					
E-19	かわいくなる					
E-20	幼くなる					
E-21	素直になる					
E-22	かわいくなった、めんこくなった					
E-23	見た目年齢が下がる					
E-24	いい笑顔だな、と職員が思える					
E-25	表情、物腰、物言いが穏やかになる					
E-26	表情が自然になる					
E-27	毒々しさがとれる					
E-28	表情がやわらかくなる					
<自然になる>						
E-29	無理がなくなる					
E-30	リラックスできる、している					
E-31	構えすぎない					
E-32	外見を気にしなくなった					
<ゆとりができる>						
E-33	最初は無理していたが、無理しなく普通になった					
E-34	居眠りができる					
E-35	畳の上に横になっていられる					
E-36	一人でリラックス、のんびりしていられる					
E-37	職員が何も言わずに隣にいても、その状態が持続できる。かまえなくなった。					
E-38	自然体、無理なく過ごせる					
<気力・体力がつく>						
E-39	急ぎ足で歩く					
E-40	コンスタントなタイムでランニングができるようになった					

E:生活の成長(つづき)		もともと できてい た	できるよ うになっ た	ややで きるよ うになっ た	ややで きていな い	まったく できてい ない
E-41	重い物を持ち上げられる					
<働ける>						
E-42	粘り強く物事に取り組めるようになる					
E-43	見てなくても働く					
E-44	作業への集中力、継続力が向上する					
E-45	洗濯物をきれいにたためるようになる					
E-46	仕事がきっちりできるようになる					
E-47	作業のときおしゃべりが出なくなった					
E-48	つべこべ言わずに作業をやるようになる					
E-49	作業に行くことをいやがらなくなる					
E-50	隅々までこだわって掃除する					
E-51	言われたらサツと動く					
<まかせやすくなる>						
E-52	作業をまかせやすくなった					
E-53	ノコギリ等、刃物を扱うことができる					
E-54	帰省時に単独で往復できる					
E-55	帰省後に不安定にならない					
<きりっとする>						
E-56	きりっとしてきた					
<自発性が出る>						
E-57	資格や漢検などの合格を目指す					
E-58	自発的に自分の持ち物の手入れをする(「くつ洗っていい?」など)					
E-59	自分から目標を持つ					
E-60	ギターをはじめめる					
E-61	自由時間に勉強する					
E-62	自分の畑をつくる					
E-63	「早く出たい」と言っていたのが「ここにいるのもいい、楽しい」と言い出す					
E-64	「今度施設を出たら～したい、～するようにするんだ」と自ら言う					
E-65	自分で目標をたてて努力する					
E-66	前向きさが出てくる					
E-67	時間を意識して動く					
E-68	「～しますか」「～持ってきますか」と自分で判断して、行動することができる					
E-69	他人の行動を見て、自分だったらと考えることができる					
E-70	率先して働けるようになる					
E-71	他人を手伝って集団の課題を終わらせようとする					
E-72	日課を早く終わらせて時間を作ろうとする					
E-73	クラブのキャプテンになりたがる					
<自分から言いに来る>						
E-74	自分から決めたことを言いに来る					
E-75	自分を開き始めた					
E-76	全然関係ないときに「俺逃げるのやめたから」「俺はこうするつもり」と言う					
E-77	自分から話を持ち出す					
<挑戦する>						
E-78	野山に分け入ることを好む					
E-79	職員の無理難題に敢えてチャレンジしようとする					
E-80	過年度受験を敢えて選ぶ					
E-81	もう1年いることにする					
E-82	生徒会などに立候補する					

項目評価用紙

実施 _____ 年 _____ 月 _____ 日

評価者氏名 _____

・各項目について、児童を評価する指標として妥当かどうか、採点してください。採点基準は、5:非常に有効、あるいは有意義、4:有効、3:まあ有効、2:あまり有効でない、1:無効あるいは不適切、の5段階評価で採点欄にご記入ください。コメントがありましたら、当該欄にご記入ください。

A:耐える力の成長		採点 (1-5)	コメント
<ルールを守る>			
A-1	ルールを守る		
<断れる>			
A-2	無断外出を相談されて断る		
<止められる>			
A-3	他児童に意味のある(有効な)注意や指示をする		
A-4	他児の無断外出を止めようとする		
<待つ>			
A-5	待つことができるようになる		
A-6	一年待てるようになる		
A-7	聞くことができるようになる		
A-8	欲求をすぐ満たそうとしない		
A-9	順番を守る		
<譲る>			
A-10	譲ることができるようになる		
A-11	「自分が～」ではなく、一歩引くことができる		
A-12	自分のことばかり主張しなくなる		
<自分の非を認める>			
A-13	素直に非を認める		
A-14	嘘をつかなくなる		
A-15	言い訳をしなくなる		
A-16	職員に説明されると自分の悪いところを認められるようになる		
A-17	事実をつきつけられても最後まで言い逃れをすることがなくなった		
A-18	過去の悪いことを「実は・・・」と打ち明ける		
A-19	責任転嫁しなくなる		
A-20	問題を起こしたときに自分から持ち出してくる		
<持ちこたえられる>			
A-21	挑発に乗らない		
A-22	自分の課題を意識して行動をセーブできる(例:一言多い子が一言控える努力をする)		
A-23	「こらえる」ことができるようになる		
A-24	自分のことについての悩みを抱えられる(すぐ行動で表さない)		
A-25	ストレス状況になった時、自分で解放(消化)できる術のようなものを身につける		
A-26	いじめられたけど逃げなかった		
<自分で回復できる>			
A-27	感情の興奮を自分で鎮めることができる(回復できる)		
A-28	気持ちが不安定になっても日課をこなせる、あるいは早く日課に戻れる		
A-29	少しの失敗でいじけたり、すねたりしないようになる		
A-30	自分の行動をコントロールする		

B:コミュニケーションの成長		採点 (1 -5)	コメント
<基本的な礼儀が身につく>			
B-1	挨拶ができる		
<相手の目を見て話ができる>			
B-2	相手の目を見て話ができる		
<自分の気持ちを言葉で表現する>			
B-3	相手に伝えようとする言い方ができるようになる		
B-4	言葉で自分の気持ちを表現できるようになる		
B-5	日誌の内容が形式的なものから自分の内面的、心理的なことについて書くようになる		
B-6	自分の思っていることを自分の言葉で話せる		
<注意、指導をとりあえずきける>			
B-7	注意、指導をとりあえずきける		
B-8	ごめんなさいと言える		
B-9	ありがとうと言える		
<話が聞ける>			
B-10	自分以外の考え方を受け入れられる		
B-11	人の話をきけるようになる		
B-12	叱られたことが入っていくようになる		
B-13	叱られても後腐れがない		
B-14	物事を自分の身におきかえて考えることができる		
<表情を読む>			
B-15	相手の感情に気づく		
B-16	表情を見る		
B-17	眼の会話が職員とできるようになった		
<場の状況・雰囲気を読む>			
B-18	人の失敗をフォローしてあげられる		
B-19	怒られている時に真剣になる		
B-20	人の話に強引に割り込まない		
B-21	職員がしたことを指示する前に察知して行動する		
B-22	まわりの空気を察知して、気を遣うことができるようになる		
B-23	人が叱られている時に笑わない		
B-24	「静かにしろ」という前に静かにする		
B-25	客が来たらスリッパを出す		
B-26	まわりがみえる		
<その場にふさわしい行動をとる>			
B-27	黙想中笑わなくなる		
B-28	気がつく(周囲を見て自分のやる事を見つけられる)		
B-29	相手を決定的にキレさせなくなる		
B-30	外出時にガンをとばさない、トラブルを起こさない		
B-31	一般中学生相手に威嚇しない		
B-32	必要なとき他の児童を手伝う目配りをする		
B-33	お互いにかまえなくてコミュニケーションがとれる		
C:対人関係の成長		採点 (1 -5)	コメント
<被害意識を持たなくなる>			
C-1	「オレばかり」という意識がなくなる		
C-2	仕事を頼まれた時、「俺がですか?」「なんでですか(何故自分に)?」と言わなくなる		
C-3	被害感が抜ける		
C-4	他児と同じ対応をしないと文句を言っていたのが、違った対応を受け入れるようになる		

C:対人関係の成長(つづき)		採点(1-5)	コメント
<安心感を持つ>			
C-5	職員から見えないところに居たがった(居場所が不自然)のが、居場所が自然になる		
C-6	職員が目を離すことができるようになる		
C-7	なにができた、やれた、嬉しかったという話をする ことができる		
C-8	相手の目を見て話が聞けるようになる		
C-9	夜尿が止まる		
C-10	職員(自分にとって指示、命令する人)への態度が やわらかくなった		
C-11	職員によって来る(話し掛けてくる、近づいてくる)		
C-12	話がなくとも職員の近くにいる		
C-13	職員との距離感が近くなった		
<他児童との関係が改善する>			
C-14	しつこいちょっかいをしなくなる(限度を知る)		
C-15	生徒間の人間関係をうまくこなす		
C-16	トラブルの対処がうまくなる		
C-17	他の児童とのトラブルを話し合いで解決できる		
C-18	けんか、トラブルなどの問題行動が減る		
C-19	対人関係のととり方がうまくなる		
<丁寧になる>			
C-20	日記などの文字をていねいに書くようになった		
<職員による態度の差がなくなる>			
C-21	職員によっての態度の違い(差)が小さくなった		
C-22	職員に敬語で冗談が言える		
C-23	職員と世間話ができる		
<職員と成熟した関係が持てる>			
C-24	世間話ができる		
C-25	敬語で冗談が言える		
C-26	職員に見せない自分を持てる		
<人の事を信用できる>			
C-27	自分の大事なものを貸せる		
C-28	弱みを見せられる		
C-29	自分のもの(例:食べ物)を公共の場(冷蔵庫など)に置いておくことができる		
<人に相談できる>			
C-30	人にSOSを出すことができる		
C-31	人に頼ったり依存しながらも問題を解決することができる、がまんでできるようになる		
C-32	特定の大人への依存感情を持つようになる		
C-33	困ったことや悩みなどを相談できる		
C-34	人に愛着を持つことができる		
C-35	キレなくなる		
<他の子をほめる>			
C-36	日常の中で他の子を見て褒めることができる		
<他児の話聞いてやれる>			
C-37	他児の話(悩み)を聞いてやれる		
<他児から評価を受ける>			
C-38	他児童に「あいつ変わった」と言われる		
C-39	他児童に「あいつは大丈夫だよ」と言われる		

D:自己評価の成長		採点 (1 -5)	コメント
<自己評価が改善する>			
D-1	「僕なんかどうなってもいいんだ」などの自己否定的な言動が少なくなる		
D-2	どうすればよくなりますか、自分のどんなところがよくなりましたか、などと訊くことができる		
D-3	「どうせ俺なんて」「なんで俺ばかり」と言わなくなる		
D-4	むやみにため息をつかない		
<できる・わかる>			
D-5	主体的に、わかった、できたと言える		
D-6	勉強に興味を持つ		
D-7	授業を受けるのが楽しいと言う		
D-8	テストの点を気にするようになる		
D-9	作業の成果を喜ぶ		
D-10	クラブや作業に行くのを楽しむ		
<楽しめるものを持つことができる>			
D-11	自分ができていることを見つける		
D-12	何をやっても楽しめる		
D-13	生活を楽しめる		
D-14	最初嫌がっていたことも、やっているうちに楽しめる		
D-15	自由時間の行動にバリエーションが増える		
D-16	一人でいられる		
<継続的に熱中できる>			
D-17	モチベーションが持てる		
D-18	一生懸命やる		
D-19	何かに熱中する		
D-20	来年もまたやろうという		
<一緒になって楽しめる>			
D-21	みんなで何かやる時、いっしょになって楽しめる		
<自分を客観的に見られる>			
D-22	自分のことを客観的に語れる		
D-23	予測ができる		
D-24	現実的になった		
D-25	物事を自分以外の視点から見ることができる		
D-26	自分の成長・進路を考えて、残って生活することを選ぶ		
D-27	自分の持つ不安に気づくことができる		
D-28	新入生などの行動を見て、昔は自分もこうでしたねと、振り返ることができるようになる		
D-29	親との関係を現実的に話せる		
D-30	入所したことや指導に対して不平不満を言わなくなった		
<現実的な不安を持てる>			
D-31	退所後への不安を示すようになる		
D-32	自分の問題(不安)に気付いて「どうしよう」と思う		
D-33	「大丈夫ツスカね」などと不安であるというサインを出せる		
<自分の現実を受け入れる>			
D-34	自分の境遇を受け入れる		
E:生活の成長		採点 (1 -5)	コメント
<生活のリズムができる>			
E-1	決まった時間に起きられる		
E-2	すっきり目覚める		
E-3	夜、眠くなる		
E-4	よく寝るようになる		

E:生活の成長(つづき)		採点 (1 -5)	コメント
E-5	消灯後、早く寝る		
E-6	「もう寝ようぜ」と打ち切る		
E-7	起床時間が守れる		
E-8	盗み食いが止まる		
E-9	睡眠、食事、排泄が安定する		
E-10	生活のリズムに慣れた		
E-11	歯磨きをごまかさなくなる		
E-12	食事をゆっくり味わって食べるようになる		
E-13	食事が適量になった		
E-14	すばやく着替えることができる		
＜子どもの顔に戻る＞			
E-15	面会者が快く面会できる		
E-16	親、面会者が「子どもらしくなった」「表情が変わった」と言う		
E-17	声を出して笑う		
E-18	笑顔が見られるようになる		
E-19	かわいくなる		
E-20	幼くなる		
E-21	素直になる		
E-22	かわいくなった、めんこくなった		
E-23	見た目年齢が下がる		
E-24	いい笑顔だな、と職員が思える		
E-25	表情、物腰、物言いが穏やかになる		
E-26	表情が自然になる		
E-27	毒々しさがとれる		
E-28	表情がやわらかくなる		
＜自然になる＞			
E-29	無理がなくなる		
E-30	リラックスできる、している		
E-31	構えすぎない		
E-32	外見を気にしなくなった		
＜ゆとりができる＞			
E-33	最初は無理していたが、無理しなく普通になった		
E-34	居眠りができる		
E-35	畳の上に横になっていられる		
E-36	一人でリラックス、のんびりしていられる		
E-37	職員が何も言わずに隣にいても、その状態が持続できる。かまえなくなった。		
E-38	自然体、無理なく過ごせる		
＜気力・体力がつく＞			
E-39	急ぎ足で歩く		
E-40	コンスタントなタイムでランニングができるようになった		
E-41	重い物を持ち上げられる		
＜働ける＞			
E-42	粘り強く物事に取り組めるようになる		
E-43	見てなくても働く		
E-44	作業への集中力、継続力が向上する		
E-45	洗濯物をきれいにたためるようになる		
E-46	仕事がきっちりできるようになる		
E-47	作業のときおしゃべりが出なくなった		
E-48	つべこべ言わずに作業をやるようになる		
E-49	作業に行くことをいやがらなくなる		
E-50	隅々までこだわって掃除する		
E-51	言われたらサッと動く		

E:生活の成長(つづき)		採点 (1 -5)	コメント
<まかせやすくなる>			
E-52	作業をまかせやすくなった		
E-53	ノコギリ等、刃物を扱うことができる		
E-54	帰省時に単独で往復できる		
E-55	帰省後に不安定にならない		
<きりっとする>			
E-56	きりっとしてきた		
<自発性が出る>			
E-57	資格や漢検などの合格を目指す		
E-58	自発的に自分の持ち物の手入れをする(「くつ洗っていい?」など)		
E-59	自分から目標を持つ		
E-60	ギターをはじめめる		
E-61	自由時間に勉強する		
E-62	自分の畑をつくる		
E-63	「早く出たい」と言っていたのが「ここにいるのもいい、楽しい」と言い出す		
E-64	「今度施設を出たら～したい、～するようにするんだ」と自ら言う		
E-65	自分で目標をたてて努力する		
E-66	前向きさが出てくる		
E-67	時間を意識して動く		
E-68	「～しますか」「～持ってきますか」と自分で判断して、行動することができる		
E-69	他人の行動を見て、自分だったらと考えることができる		
E-70	率先して動けるようになる		
E-71	他人を手伝って集団の課題を終わらせようとする		
E-72	日課を早く終わらせて時間を作ろうとする		
E-73	クラブのキャプテンになりたがる		
<自分から言いに来る>			
E-74	自分から決めたことを言いに来る		
E-75	自分を開き始めた		
E-76	全然関係ないときに「俺逃げるのやめたから」「俺はこうするつもり」と言う		
E-77	自分から話を持ち出す		
<挑戦する>			
E-78	野山に分け入ることを好む		
E-79	職員の無理難題に敢えてチャレンジしようとする		
E-80	過年度受験を敢えて選ぶ		
E-81	もう1年いることにする		
E-82	生徒会などに立候補する		

児童評価票作成への参加のお願い

今回送らせて頂いた児童評価票は、検討委員会のメンバーによるたたき台です。似たような項目が多かったり、表現がこなれていなかったりするのはそのためです。

これを手始めとして、

- 1) このたたき台の各項目が適切であるかどうかを全国の児童自立支援施設の職員の先生方に 5 段階評価をして頂き、その結果に基づいて、この中から項目を選び出し、児童評価票第 2 版を作成する。
- 2) さらに付け加えるべき項目があるとあなたがお考えの場合（例えば、比較的入所初期段階での成長過程についての項目が不足しているのではないかと思います）、その項目案をできるだけ出して頂く（多いほどありがたいと思います）。委員会がそれらを検討した上で、児童評価表の第 2 版の項目として付け加える。
- 3) 概念構成試案についても、変更すべき点があるとあなたがお考えの場合、その変更点を示して頂く。
- 4) 1) - 3) の作業により、第 2 版の児童評価票と概念構成第 2 案を委員会で作成し、再度調査を繰り返すことで、最終的な児童評価票を作成していく。

このような段階を経て児童評価票を作成することにより、全国の児童自立支援施設職員の経験を集約する形で、児童の評価票を作成できると考えています。どうぞご協力をお願いいたします。

検討委員会一同

富田拓、相澤仁、奥山隆、家近二郎、宇佐見兼市 1)、捧一 2)、高橋一正 3)、岩井幸祐 4)、永川亮 5)、岩本健一 6)、浅野恭子 7)、西浪祥子 8)、多田薫 9)

- 1) 国立武蔵野学院
- 2) 社会福祉法人北海道家庭学校
- 3) 北海道立大沼学園
- 4) 栃木県北児童相談所
- 5) 東京都立萩山実務学校
- 6) 滋賀県子供家庭課
- 7) 大阪府立修徳学院
- 8) 岡山県立成徳学校
- 9) 福岡県立筑後いずみ園

・ 付け加えるべきだと思われる評価項目の案を以下にご記入ください。

1,

2,

3,

4,

5,

6,

7,

8,

9,

10、

不足であれば、裏面にもご記入ください（右に○をお付けください）。 裏面記入・あり

・ 概念構成案に変更すべき点があると思われる場合、構成案の図に変更点を直接ご記入の上、ご返送ください。

よろしければ施設名とお名前をご記入ください。（無記名でもかまいません）

施設名 _____

御氏名 _____

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
奥山真紀子	子どもの虐待—ネグレクト及びドメスティックバイオレンスについて—		健康教室 第650集			2005	86-89
奥山真紀子	ShakenBaby Syndrome	坂井聖二, 奥山真紀子, 井上登生	子ども虐待の臨床—医学的診断と対応—	南山堂	東京	2005	99-105
奥山真紀子	性的虐待とその所見	坂井聖二, 奥山真紀子, 井上登生	子ども虐待の臨床—医学的診断と対応—	南山堂	東京	2005	211-234
奥山真紀子	性的虐待の現状と支援の課題	日本家族心理学会	家族間暴力のカウンセリング	金子書房	東京	2005	85~100
奥山真紀子	子どもの自立支援の理念について	児童自立支援対策研究会	子ども・家族の自立を支援するために—子ども自立支援ハンドブッカー—	児童福祉協会	東京	2005	14-32
奥山真紀子	虐待をいかに防止するか—落とさないネットワークの構築に向けて, 児童虐待—防止のためのポイント			年友企画株式会社	東京	2005	156-166

奥山真紀子	トラウマについて教えてください、PTSDについて教えてください、解離性障害について教えてください、虐待を受けた子どものかかわり方について教えてください、思春期の子どものかかわり方について教えてください、性の問題にはどのように対処したらいいですか？	庄司順一	Q & A 里親教育を知るための基礎知識	明石書店	東京	2005	176-183 226-235
奥山真紀子	子供虐待，第8章子供の心の治療の新しい流れ		先端医療シリーズ 34 小児科の新しい流れ	先端医療技術研究所	東京	2005	193-197
奥山真紀子	子ども・家族への支援計画を立てるために—子どもの自立支援計画ガイドライン	奥山真紀子 協編著・児童自立支援計画研究会編	子どもの自立支援計画ガイドライン	児童福祉協会		2005	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
奥山真紀子	親子再統合の意味とその支援	母子保健情報	50号	147-150	2005
奥山真紀子	虐待を受けた子どものトラウマと愛着	トラウマティック・ストレス	3	3-11	2005
奥山真紀子	虐待を受けた子どもの PTSD とトラウマケア	看護技術	51	40-43	2005
奥山真紀子	愛着障害の治療	精神科治療学「精神科治療ガイドライン」	20 増刊号	294-297	2005
奥山真紀子	子ども病院におけるリエゾン精神医学	児童青年精神医学とその近接領域	46	79-89	2005